

流通とSC・私の視点

2018年8月27日
(2019年1月28日修正)

視点(2207)

SCからSC² or SCCへ!!

(SC理論編)

ショッピングセンターは買物をする“場”という語意ですが、モノ離れ及びネット通販旺盛の時代においては、何か違和感があります。しかしながら、SCは現在でも買物の場(売上の70~80%はモノを買う場)であり、消費者も買物の場という意識を持っています。

また、アメリカでもSCの名称に「ショッピングセンター」「モール」「スクエア」「プラザ」「ガーデン」「ヴィレッジ」がついていたのが、今では単なる名前だけで呼ばれている場合が多くなっています。アメリカでは、これらは一定の定義に基づき「SC=ショッピングセンター」と呼ばれ、概念的な広義の意味で使われています。

そこで、モノ離れ(第1次モノ離れ、第2次モノ離れ)以降及びネット旺盛時代に適した呼び名として、私は「スマート・コミュニティ・センター」、通商「SC²(エス・シー・ツー)」あるいは「SCC(エス・シー・シー)」と呼ぶようにしています。脱SCの時代であっても、まだSCという呼び名は一般的につかわれていますので、SCという名を残しつつ新しい概念で命名(?)しました。このSC²(あるいはSCC)の内容は次の通りです。

SC²(SCC)の概念

1つの固有マーケット(商圏含む)を

経済圏化したプラットフォームとしてのSC²

—独自形成したSCマーケットの中で住民とディベロッパー・テナントが互いに価値創造するシステム—

タウンセンター				ギャザリングセンター				デジタルネイティブセンター				サステナブル志向センター			
住民起点のプラットフォームとなるSC	まち遊びが出来るまちづくり型SC	地域の交流の場となるサードプレイス化したSC	おもてなしとしつらえ感のあるSC	モノとコトが融合したSC	トキ&イマとココが融合したSC	エンターテインメント&レジャー志向のSC	生活シーンをSC内に反映したSC	EコマースネイティブのSC	パーソナライズ化したSC	買物行動をアリコリズム化したSC	デジタル販促とアナログ販促の融合したSC	地球環境に配慮したSC	社会現象に対応したSC	地域の課題を解決するSC	人間の精神的向上を醸成するSC

また、SC²は次世代型SCでもあるため、次の要素も付加されます。

融 合	棲み分け
①フィジカル空間・社会とサイバー空間・社会の融合 ②デジタルとアナログ&ノスタルジーの融合 ③合理性とクールジャパンの融合	①マーケットデザイン理論に基づく棲み分け ②リアル店舗とネット通販の棲み分け ③多様なニーズの探索と潜在ニーズの掘り出しによる棲み分け

SC²は2020年以降の情報・デジタル経済基軸時代の性格を多く持つため、今後は概念的にも技術的にも深化します。

(株)ダイナミックマーケティング社⁷
代 表 六 車 秀 之